

Castleman 病患者の重症虚血肢に対して distal bypass をおこなった 2 例

慶應義塾大学 外科

林 応典 (はやし まさのり ; 29 才)

尾原 秀明, 松原 健太郎, 下河原 達也, 林 啓太, 北川 雄光

Castleman 病 (CD) は非常に稀なリンパ増殖性疾患であり, 様々な臓器に合併症をもたらす. CD と下肢虚血に関する報告は稀であるが, CD 患者の重症下肢虚血 (CLI) に対する distal bypass を 2 例経験したので報告する.

【症例 1】

48 歳男性. 14 年前に CD と診断されステロイド治療を開始し, 半年前に維持透析 (HD) 導入となった. 蜂窩織炎を伴う CLI を呈したため, 血管内治療 (EVT) を先行し, 感染消失後に自家静脈による膝上膝窩動脈-前脛骨動脈バイパスを施行した. 術後 2 年経過するが, 良好な開存を得られている.

【症例 2】

62 歳男性. 16 年前に原因不明の腎不全に対し HD 導入され, 10 年前に CD と診断されステロイド治療を開始された. 足趾潰瘍を伴う CLI に対する他院での複数回の EVT で改善なく, 当科紹介となった. 足部の run-off 不良のためバイパス困難症例であったが, 自家静脈による膝上膝窩動脈-足背動脈バイパス, 足趾切断術を施行するも, 術後早期にグラフト閉塞を認めた.